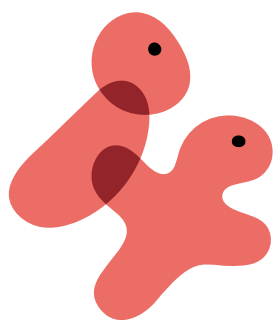


いのち宣言



いのち会議
INOCHI FORUM

暫定縮刷版

2025年4月26日

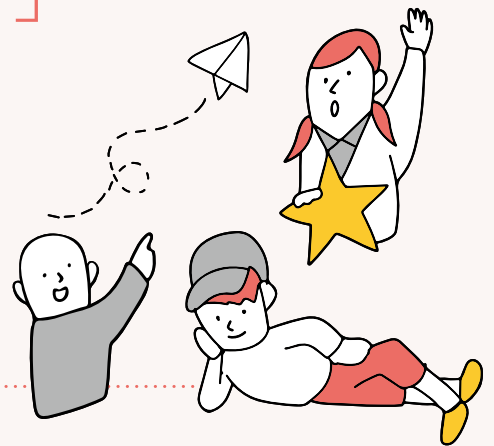
「いのち会議」事業推進協議会

「いのち宣言」

私たちに与えられた かけがえのない このいのち
はかなくて 傷つきやすく 時のなかで 変わっていく
どんないのちも 輝きを秘め
すべてのいのちは つながっている
ひとつ ひとつの いのちを
まもり はぐくみ つないでいこう
秘めた輝きを ときはなとう
生きている 意味をしろ
いのちのみなもとに かえろう

1 いのちを「感じる」

人や自然と出会い、それぞれの「いのち」を感じる
「いのち」のはかなさや傷つきやすさを感じ
そうであるがゆえの「いのち」の尊さや喜び
秘められた輝きや価値を感じる



宣言 1-1

アートを通じていのちを感じ
誰もが持つ慈しむ心を引きだそう

宣言 1-2

苦境や逆境の中にいる人びとの痛みを感じ
共感の輪を広げて
「誰一人取り残されない」社会をつくろう

宣言 1-3

さまざまな文化や精神活動を通じて
いのちを感じる力を育み
いのちのみなもとを感じよう

2

いのちを「まもる」

さまざまな脅威から「いのち」をまもる
特に傷ついている「いのち」
弱められている「いのち」に向き合い
寄り添い、手を差し伸べる



宣言 2-1

いのちの尊厳に立ち返り
憎しみの連鎖を解消することによって平和な社会を築こう

宣言 2-2

市民が互いに信頼できるしくみを構築し
誰もが自由に意見を表明し
活動できる社会をつくろう

宣言 2-3

平時から災害時を想定した防災のしくみを整えよう

宣言 2-4

資源リサイクルやエネルギー循環のしくみを確立し
地球の環境を守ろう

宣言 2-5

デジタルテクノロジーを活用し
個人や家族に寄り添ったいのちのケアを実現しよう

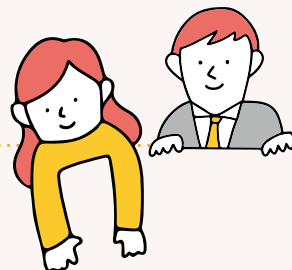
3 いのちを「はぐくむ」

多様な「いのち」の秘めた力を見だし

「善く生きる」ために活かす

社会のしくみを整え、ひとりひとりの潜在能力を伸ばす

自然の恩みを持続可能な形で受ける



宣言 3-1

教育を通じて貧困の連鎖を断ち

差別や格差を解消することによって

すべての人が安全を享受できるようにしよう

宣言 3-2

子どもや若者が自由に思いや意見を表明し

意思決定に関わることのできる社会にしよう

宣言 3-3

市民目線で情報を共有し

消費を通じて社会を変革しよう

宣言 3-4

住民間の対話と交流を促進する公共政策や

ソーシャルビジネスを通じて

地域社会の未来を切り拓こう



4

いのちを「つなぐ」

様々な差別や偏見、分断を乗り越え、敵意のない世界を実現する
自然と共生し、全体がひとつの大きな「いのち」であることに気づく
過去、現在、未来へと「いのち」をつなぎ
大きな「いのち」を持続させる

宣言 4-1

いのちの視点に立ち
国・民族・人種・世代などによる対立や
分断を乗り越える創造的対話を促進しよう



宣言 4-2

ジェンダーを超えて人びとがつながり、学び合い
ジェンダー平等に基づく社会を構築しよう

宣言 4-3

人々が自由に集い、それぞれのいのちが輝く「居場所」を作ろう

宣言 4-4

地域の課題解決のために、地域や所属
分野をこえた人のネットワークを作ろう

宣言 4-5

企業と社会が積極的に対話し
一体となって助け合いの経済システムを構築しよう

宣言 4-6

自然の中で生かされていることに気づき
自然を大切にする活動を広げよう

5

いのちを「しる」

「いのち」のみなもと、「いのち」を成り立たせているもの
「いのち」が向かっているところを
科学、哲学、宗教だけでなく、さまざまな経験を通じて知り
生かされていることの意味を知る



宣言 5-1

地球に関する様々なことがらを知り
生きた地球を心の中に抱き、地球と人類の関係を捉え直そう

宣言 5-2

人間以外の「いのち」にも共感し
環境問題を自分ごと化して行動を起こそう

宣言 5-3

GDPを超えて、幸福や文化的活力を捉える
新たな指標を開発し、質の高い暮らしにつなげよう

宣言 5-4

デジタルテクノロジーを活用して社会課題の現場を知り
共感の範囲を広げよう

1. 「いのち会議」設立の背景

近代以降、科学と技術の発展により、産業は発展をとげ、一人あたりGDPは継続的に増加し、人々の寿命は延び、消費生活は便利で豊かなものになりました。しかしながら、物質的な豊かさの追求は、人類やその他の生命体、あるいは地球そのものの「いのち」を脅かす様々な課題を生みました。（「いのち」は生命の尊さを表す日本語です。それは人間にとどまらず、すべての生き物の生命や生き様を包み込み、尊厳、個性、そして可能性が大切に扱われるべきものを意味します。）

19世紀の半ばに10億に達した世界人口は爆発的に増加し、2050年には90億を超えと言われています。他方、日本のように少子化による人口減少の中で高齢化が進む国もあります。

このような中、国連において2030年をターゲットに「持続可能な開発目標（SDGs）」が定められ、「誰一人取り残さない」をスローガンに、人類が協働して地球環境の破壊、自然資源の枯渇、エネルギーや食糧の不足、伝染病の蔓延、経済の停滞、格差や貧困、紛争や戦争など、人間の安全保障やプラネタリーヘルスに関わる様々な課題に立ち向かうことが約束されました。

2020年代に入ってから、人類は、新型コロナウイルス感染症の経験によって、また世界の各地で起こった紛争や戦争によって、誰もが「助けを必要とする人」になり得ることを学びました。この経験を活かし、私たちはSDGsが掲げる「誰一人取り残さない」精神のもと、互いの「いのち」を尊重し、助け合うとともに、すべての「いのち」を輝かせる活動を展開しなくてはなりません。

以上の問題意識に立ち、2023年年3月24日、大阪大学、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所が発起人となって、「いのち会議」を立ち上げました。「いのち会議」は、「いのち」とは何か、「輝く」とはどういうことかを問いつつ、「すべてのいのちが輝く」ために何をなすべきかを、あらゆる境を越えて考え、議論し、行動につなげていく場です。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）会期中に活動の成果を「いのち宣言」として世界に発信すること、そして万博終了後は「いのち宣言」を新たな出発点として人びとの思いと行動のネットワークをさらに広げ、2030年のSDGsの達成、そして2030年以後の新たなゴールの策定に向けたグローバルなムーブメントを起こし、2050年に「すべてのいのちが輝く社会」を実現することを目標としました。

2. 「いのち会議」の3つの活動

「いのち会議」の主な活動は「いのちの声」、「アクションパネル」、そして「いのち宣言」の3つです。それぞれ、「聞く」、「話す・考える・行う」、「言葉にする」という役割をもちます。「いのち会議」はこれら3つを螺旋的に循環させながら活動を進めています（図1）。

2050年「すべてのいのちが輝く社会」

2030年 Post SDGs

SDGs

言葉にする

いのち宣言

すべてのいのちが輝く未来のために人類が為すべきことを言葉にして人類全体に発信する

聞く

いのちの声

自分が望むことや未来の社会に関して、世代や性差、民族や国籍等、あらゆる境を超えて、若者や子どもたちも含めた「小さな声」を聞く

いのち

アクション・パネル

産官学民のメンバー、さらには若者や子どもたちも一緒になって、テーマごとに議論し、考え、それぞれのテーマの解決や達成のための行動につなげていく

話す・考える・行う

図1 「いのち会議」の3つの活動

(1) 「いのちの声」— 聞く

私たちは、まず互いに声を聞き合わなくてはなりません。特に脆弱(vulnerable)な状況にある人びとの声を聞かなくてはなりません。大きな声だけでなく、小さな声、声なき声を聞いた上で行動しなければ、SDGsが唱える「誰一人取り残さない」には至らないでしょう。

「いのちの声」は、自分が望むことや未来の社会に関して、世代や性差、民族や国籍等、あらゆる境を超えて、若者や子どもたちも含めた小さな声をアンケートなどを使って聞きます。文字で表現されるものだけでなく、絵や動画等、様々な形の作品によって表現された声を集めます。これまで、次のような質問を国内外の人びとにしてみました。

1. あなたは、どんな社会(または世界)を望みますか?
2. それはどうしてですか?
3. そんな社会(または世界)のために、あなたは何をしたいですか?

集められた声は整理・分析した上で、ホームページ等に掲載しています。

<https://inochi-forum.org/action-report/voice/questionnaire/>



(2)「アクションパネル」― 話す・考える・行う

「アクションパネル」は、産官学民のメンバー、さらには大学生や高校生、中学生や小学生を含む若者や子どもたちとも一緒になって、SDGsに関連するテーマ、あるいはSDGsには含まれない+Beyondのテーマごとに議論し、考え、それぞれのテーマの解決や達成のための行動につなげていく場です。これまで、以下の12のテーマに分かれて開催してきました。

テーマ：

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 医療・福祉 | 2. 教育・子ども |
| 3. 経済・雇用・貧困 | 4. 街づくり・防災 |
| 5. 食・農業 | 6. 多様性・包摂 |
| 7. 平和・人権 | 8. エネルギー・気候変動 |
| 9. 資源循環 | 10. 環境・生物多様性 |
| 11. アート・文化・スポーツ | 12. SDGs+Beyond |

「アクションパネル」の詳細についてはホームページをご覧ください。

<https://inochi-forum.org/action-report/action-panel/>



(3)「いのち宣言」― 言葉にする

「いのちの声」や「アクションパネル」の活動を踏まえ、すべてのいのちが輝く未来のために人類が為すべきことを言葉にして人類全体に発信するのが、この「いのち宣言」です。「いのち宣言」は、「いのち」を「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」、「かんじる」、「しる」という視点で発出します。

このような枠組みのもと、「アクションパネル」に登壇してくださった方や「いのち会議」の理念と活動に賛同してくださる方を中心に、2050年にむけたアクションプランの素案を提供していただきました。すべてのアクションプランをホームページでご覧いただくことができます。

<https://inochi-forum.org/action-report/inochi-declaration/>



また、「いのち宣言」の最初の文章には、一般社団法人 Feel&Sense の橋本昌彦さんが曲をつけてくださり、「いのち会議」のテーマソング「いのち／INOCHI」となりました。この曲は以下のコードから聴くことができます。

<https://inochi-forum.org/action-report/general-event/theme-song/>



「いのち宣言」の5つの視点

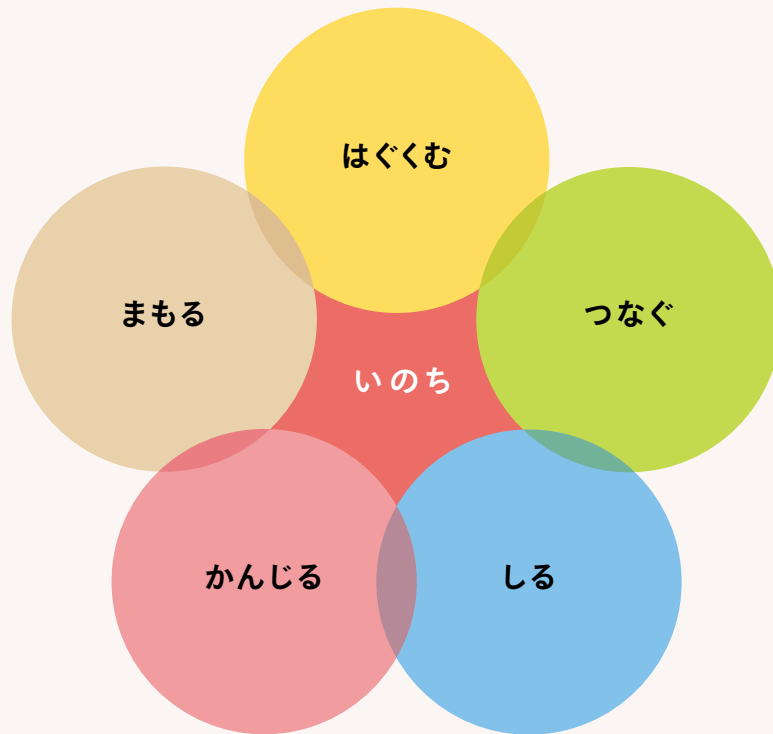


図2 「いのち宣言」の枠組み

この度、いただいたアクションプランをもとに、「いのち宣言」の暫定縮刷版を作成しました。確定版は10月11日に万博会場「フェスティバル・ステーション」で開催される「いのち宣言フェスティバル」において発出する予定です。本宣言はあくまでも暫定版です。今後は皆様のご意見をいただきながら確定版を作成してまいります。皆様の積極的なご意見をお待ちしております。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「いのち会議」事業推進協議会

議長	西尾 章治郎
	池上 清子
	熊ノ郷 淳
	田中 明彦
	鳥井 信吾
	堂目 卓生
	永井 靖二
	松本 正義
	宮部 義幸
	吉田 憲司

「いのち会議」事業実行委員会

委員長	堂目 卓生
	沖 大幹
	河原 源太
	河本 健一
	熊谷 晋一郎
	佐藤 基嗣
	竹村 景子
	林 美加子
	廣瀬 恭子
	古谷 由紀子
	松村 幹雄



〔問合せ先〕

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53

大阪大学中之島センター5階

「いのち会議」事業事務局

<https://inochi-forum.org/>



〔発行者〕

「いのち会議」事業推進協議会

〔協賛〕

一般社団法人関西イノベーションセンター(MUIC Kansai)